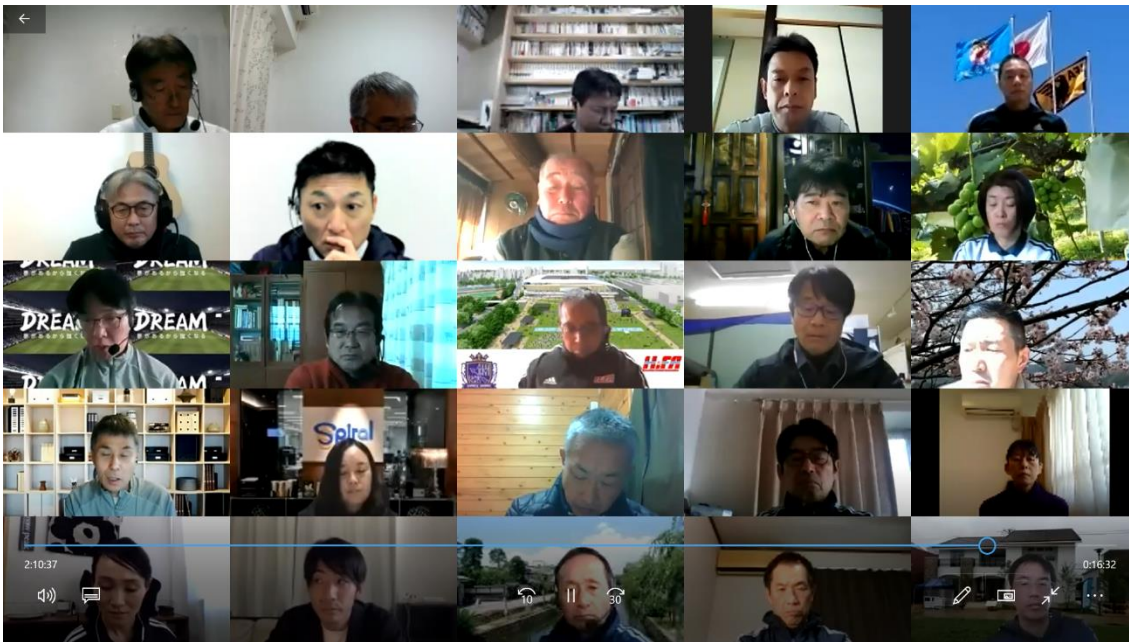


## 中国地域審判フォーラム (WEB会議) が開催される 2021. 1.9

審判員・審判指導者の育成について、現状をとらえ、今後の取り組みにつなげていくディスカッションと総括が行われました。

### ○フォーラムのテーマ

「地域 FA と県 FA が一丸となった育成の実現に向けて」



- 参加者 52 名 (JFA 審判委員会 中国地域審判委員会委員 各県審判委員会委員)
- 挨拶 日本サッカー協会 審判委員会委員長 黛氏
- グループディスカッション 「魅力ある審判活動にしていくための具体的な取り組みの提案」  
7つのグループに分かれ、以下の5つのサブテーマについてのディスカッションが行われた。
  - A サッカー審判員 「3級審判員を目指す審判員を増やすために」
  - B 女子審判員 「女子サッカー(女子審判員)を見る機会を増やすために」
  - C フットサル審判員 「U22 のフットサル審判員を育成するために」
  - D サッカー3級インストラクター 「3級インストラクターの活躍の場を作り出そう」
  - E フットサル3級インストラクター「インストラクターの指導現場が充実していくために」
- 共有と総括 全体でのディスカッション内容の共有  
地域の各部長による総括  
地域委員長 南氏による総括
- 講評 鳥取県サッカー協会専務理事 高田氏  
JFA 審判委員会副委員長 小川氏  
JFA 審判部部長 真田氏

➤ディスカッションでの意見(抜粋)

#### A【サッカー審判員】

- ・1 級審判員、2 級審判員になることによるメリット(なることによるステータスの向上)は周知されている部分があるが、4 級審判員から 3 級審判員になることのメリットが十分に周知されていない。どのような形で 3 級審判員になることのステータスを伝えることができるのかが課題
- ・各種別の大会に審判指導者を派遣し、指導という形ではなくても、個別に声掛けをすることで審判活動に興味を持ってもらえるようにする
- ・大会運営をしていくために審判が必要であり、種別からの依頼に応じて審判委員会がサポートしていく形が取れるようにならないか

#### B【女子審判員】

- ・広報活動 SNS やポスター、ホームページ、チラシによる PR 活動の徹底。学連や県協会 HP
- ・なでしこのゲームへの観戦(研修)参加(なでしこ広場)。  
(観戦だけでなく、ゲーム終了後のイベント開催(魅力づくり)。女子部会の組織の強化。
- ・意欲的な審判員は、自分から活動できるが、これから審判を進めていく審判員にはレベルのあった試合で経験させることが重要である。様々なカテゴリーを経験できるように、審判委員会と各種別との連携が必要である。スムーズにお願いできるよう、システムも必要である。
- ・選手をしている年代から指導を続けていく。選手をしながら審判としてもステップアップを目指す

#### C【フットサル審判員】

- ・U18に関してはフットサルの普及を含めてサッカー部員の少ない高校などのアプローチをして審判と共に普及することで人を増やす。U22に関しては大学生が中心となるが、サッカー部よりもフットサル部の部員が多い大学もあるので、そちらにアプローチをする。
- ・具体的にはリーグ参加や試合をする為に審判が必要という程で帯同審判のような形で資格を取得させ審判をやってもらう仕組み作りを行う。
- ・またその中で上級の試合(中国リーグ)を経験させ、試合を体験させる他、上級審判員と交流する機会を作り、審判の魅力を感じてもらう。

#### D【サッカー3級インストラクター】

- ・4種への派遣(4種専門の3級INS) 種別対応(1種、2種、3種、4種、女子など)
- ・2級INSが3~5名の3級INSを担当し、フィードバックや総括を行う。
- ・3級INSの得意なスキルを活かした役割分担 IT、コーチング、フィジカル、ティーチング・・・など
- ・審判員のカテゴリーに合わせ、インストラクターもカテゴリー編成を行う。
- ・3級インストラクター用にわかりやすい指導者ガイドブックがあると良い。
- ・インストラクタートレセンを活用し、スキル向上を図る。

#### E【フットサル3級インストラクター】

- ・素朴な疑問から不安や悩みなどの話を聞き、良き相談相手となることが必要と考える。
- ・研修会の場に呼ぶだけではなく、FIの方も県リーグなどの帯同審判員がいる現場に自ら赴き、相談相手となることが必要だと考える。2級審判と兼任が多いため専任のインストラクターの人数が増えることが望ましい。
- ・インストラクターの必要とされている場(試合)は多くなっている。ただ、活動に伴う予算が足りない状況である。
- ・イントレの参加、チューターリングやIT等で3級のスキルアップを行う。

➤ 総括 講評(抜粋)

●中国地域審判委員長 南氏

各部会や各県からの参加者をカテゴリーで分けずにミックスしたグループでのディスカッションは育成の現状を理解できたとともに情報発信やアプローチの方法等を共有できた。女子審判員、フットサル・ビーチへの関心の薄さは気になることであり、各県の委員会の中で取り組み課題等を共有してほしい。インストラクターに関しては相談役であるとか得意分野を活かすなど活躍の場を作る取り組みを進めていただきたい。中国委員会として今回の意見をもとに取り組みの方向性を検討していきたい。

●鳥取県サッカー協会専務理事 高田氏

「目の前の試合がうまくいく」ことが審判員への期待であり、それに向けての努力を忘れずに、プレー機会を確保して保護者、選手が満足する環境を整えてほしい。資格を持っていても実際に活動していない審判員が多く、実働数や質も考慮することが必要であり、登録料に見合ったサービスについても考えるべきである。また、事務局と連携し、情報発信等を工夫してほしい。

●JFA 審判委員会副委員長 小川氏

すべてのカテゴリー、幅広い世代の方が一同に会して意見交換したこのフォーラムは今までにない形である。JFA RD 部会が進めてきた地域フォーラムにとってこのような形ができたことは一つの成果と考える。限られた時間の中で関心が薄い、パワーがないところへの意見共有、異なる目線からのアイデア、多くの気づきが出された。これは大きな一歩であるが、大切なのは出てきた課題やアイデアをこれから何に結びつけていくか、地域や県が何を目指していくかである。そのために状況分析、課題のあらいだし、課題の解決方法のサイクルを回すことが重要である。地域と5県がしっかりと連携することと個人ではなく組織としての取り組みを継続してほしい。

➤ フォーラムについての感想 (事後アンケートから抜粋)

●各5県の方や JFA の方と意見交換をできる、とても貴重な場であり今回のフォーラムは各種のサッカーや女子サッカーの取組みについて知る良い機会となりました。フットサルについても貴重な意見を頂き、今後を活かせればと感じました。ただし、女子サッカー、フットサルについてはそれぞれ関わりがほとんどなく、各県内のことでも情報共有がなされていない事がわかりました。今後はフットサルと女子サッカーについては、積極的な発信をしていくことと、サッカーや女子サッカーの場にも出向いて交流を持つことが大事になると強く感じました。

●ファシリテーターの適切な配置とそうでない配置(リードして意見を求めるテクニックの不足)でテーマによっては中々意見が出ない事が気になった。事前の打ち合わせなど今後の検討課題と感じた。

●このような機会は初めてであり、貴重な会となった。アクティブな活動をしている方が入ることにより、今後を見通したかつ未来思考の意見が多く興味あるものであった。

●県によって事情が異なるので全て目標を一致させるのは難しいと思うが、新しい試みとしては今後につながると思う。今回の意見を基に新たな発展的な方向性や施策を発見して欲しい。

●グループに様々な立場の方を入れてディスカッションするが、見識不足で発言できないテーマもあり迷惑をかけた。知識不足のテーマに対する見識を深めることができたが、より深い議論を行うためには同じ立場の方による議論も必要と感じた。

●コロナ禍の遺産としての「リモート会議」は、経費的にも体力的にも、時間的にも非常に良いシステムであり、積極的(当然のように)に活用しての開催は評価できるものと思います。多忙なJFAのメンバーも1日参加していただき、地域実情を今までとは異なった形で感じ取っていただいたと思います